

第4回 大和市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議 会議録

- 1 日 時 平成28年1月27日(水) 10時00分～12時00分
- 2 場 所 市役所本庁舎5階 委員会室
- 3 出席者 委員7名
小野沢、川崎、○宮東、小別所、島津、鈴木、◎渡辺(◎座長、○副座長)
- 4 傍聴人 なし
- 5 次 第
 - 1 開会
 - 2 議題
 - (1) 大和市版人口ビジョン・総合戦略について
- 6 会議資料
委員名簿
資料1：「健康都市 やまと」人口ビジョン(素案)
資料2：「健康都市 やまと」まち・ひと・しごと創生総合戦略(素案)

【議 事】

- 座長 : 事務局に資料説明をお願いします。
- 事務局 : **【資料1、資料2について説明】**
- 座長 : 委員より、資料についての意見や質問等はあるか。
- F委員 : 人口ビジョンについて、人口置換水準(出生率2.07)は、人口が平衡する出生率であることを注釈で示した方が良いでしょう。
- 事務局 : 注釈を入れて分かりやすくしたい。
- F委員 : 戦略の基本目標1個別目標1の「出産しやすいまち」という表現はストレートすぎるのではないかと。これでは、女性しか関係しないように見えるが、実際には、夫が経済的なことを考えて出産にブレーキをかけていることもあると聞くので、夫婦の問題として子どもを持つことを考えてもらう必要がある。「子どもを持ちたくなるまち」等の表現の方が好ましいように思う。
- C委員 : 大和市は平坦な道路網が魅力の一つであるが、自転車だけでなく、「ウォーキングのまち」という言葉が、戦略のどこかで示せると良いのではないかと。また、子どもたちのための広場や公園はあるが、本当に子どもが夢中になるような、例えば科学館やプラネタリウムなど、大きな屋内の施設があると良いと思う。財政面で難しい部分はあると思うが、こうした施設があると、人がたくさん集まってくると思う。

- 事務局 : 平成28年11月にオープンする文化創造拠点の中には、様々な遊具を備えた「屋内こども広場」を設置していく予定である。また、ゆとりの森の整備も進めており、今後は、中央林間地区のまちづくりにも力を入れていくので、参考にさせていただきたいと思う。
- F委員 : 戦略の18ページ「ダブルケア」について、分かりやすいよう注釈をつけた方が良いと思う。また、28ページでKPIに設定している「人口の社会増減(30歳代)」の目標値はわずかな増であり、年度毎に生じる振れ幅の誤差範囲とも捉えられ、弱気な目標設定に感じる。
- 事務局 : 人口ビジョンの16ページ図表1-21に表示しているとおり、近年では、30歳代の転出超過数が多いという実態を考慮すれば、この数値でも、十分踏み込んだものになっていると捉えている。
- F委員 : 年度をスポットでみてしまうと、たまたま転出超過が少ないことも考えられる。例えば、5年間の合計での転出超過数を目標にしてはどうか。
- E委員 : まず、この会議の位置付けについて確認だが、会議で出た意見は、市が戦略を策定するうえでの参考として扱ってほしい。市の考えが重要であり、我々の意見がそのまま反映されるというのは、この会議の役割と少し違うように思う。戦略案については、全体的に良くまとまっているという印象を受けた。案の3ページの人物シルエットは男性ばかりなので、女性や子どもを入れた方が良いのではないか。また、「健康都市連合」や「健康都市優秀インフラストラクチャー賞」等に関する記載は、大和市のPRも兼ねて注釈を付けた方が良いと思う。更に基本目標4にある「富士山にも出逢える」という表現は、唐突に感じるので、例えば「元気な人たちや生き生きとした人たちに会える」という方が適切なメッセージになるのではないか。目標数値について、見せ方が難しい部分もあると思うが、例えば、「保育所等の定員確保」や「放課後児童クラブ受入れ児童数」などは、将来の計画値でもあり、個別計画に連動していないのであれば、1桁単位の端数ではなく、ある程度数字を丸めて示しても良いのではないか。この他、現状値を「0」としている指標について、まだ取り組みを始めていないということは理解できるが、「-」で表示した方が実態に合って分かりやすいのではないか。その他、基本目標2で年間犯罪発生件数を数値目標にしているが、警察において取り組む目標であり、他者の数値で全県を対象としていることから、むしろ体感治安に関する意識調査結果の方が市民レベルにおけるアウトカム指標としては適当と考えられる。
- 事務局 : この会議の役割についてだが、有識者の皆様から専門的な意見をいただく場であり、策定主体は市である。意見をいただき、最終的には市の責任でとりまとめを行うものである。総合戦略の位置付けを示すイラストは修正していきたい。「健康都市連合」などの表記には、注釈を入れてい

く。「富士山にも出逢えるまち」については、市民討議会や市議会における提案などを踏まえるとともに、都市部で垣間見える富士山の面白さをPRしていきたいと考え取り入れた。冊子の中で富士山が写っている写真を使いアピールもしている。目標数値の中で、「保育所等の定員確保」に関しては、法定計画である大和市子ども・子育て支援事業計画との整合を図ったものであり、細かい数値のままをしたい。それ以外の部分については、ご意見をいただいたうえで調整していきたい。

E委員 : 「富士山にも出逢えるまち」は、市内に富士山が見えるスポットがあることをしっかりと記述しないと分かりづらい。また、記載されている目標値は、数値の伸び率の考え方が記述されていると分かりやすい。

C委員 : 大和市は零細企業が多く、事業承継への支援は重要だと思うが、戦略の中では、あっさりと書かれている。もう少し具体的に踏み込んだ記載が出来ないかと思う。

事務局 : 事業承継については、この会議を通じて、その問題の重要性を認識したところであり、具体的な取り組みについては、今後、検討を進めていきたいと考えている。

F委員 : 創業支援コーナーを設置するのであれば、そこに、事業承継支援も含めれば良いのではないかと。

C委員 : 創業と廃業が繰り返されると、若者もまちに定着しない。事業が継続可能な環境にしていかないとまちが落ち着かない。商店街の衰退も事業承継に関連していると思う。例えば、手打ち蕎麦屋は、蕎麦打ちをできる人材がいなければその代で終わる。技術を承継するための支援も必要である。

F委員 : 事業をやっているときは収益を上げているのに、継いでくれる人がいないために、廃業してしまうのはもったいないと思う。

A委員 : どの地域でも事業承継、後継者不足は問題となっている。銀行としては、ビジネスのマッチングを行うことで、地域の企業を支援している。これには、地元の商工会議所や税理士の力も必要であり、ネットワークを組んで情報交換できると良い。また、創業支援についても、こうしたネットワークを組んで進めていくことで、事業承継、後継者問題も含め、深く突っ込んだ取り組みが出来るとは思わないかと思う。

F委員 : 市が事業承継の問題解決に取り組んでいくという方向性や施策を打ち出せば、困っている企業にとっても安心感が出ると思う。

D委員 : 事業承継の問題には、国はかなり力を入れて取り組んでおり、「中小企業における経営承継の円滑化に関する法律」に基づいて、2代目は税制面の優遇措置を受けられることとなっている。しかし、なかなか制度が周知されていないように思う。仕事が見つかりやすいまちに関して、商工会議所では、介護ロボット産業に特に注目している。また、戦略の中に、

子どもたちが興味を抱く「科学」という言葉を入れても良いのではないかと思う。

A委員 : 23ページで、「市域全体の均衡ある発展を促すまちづくり」という記載があるが、具体的なところでは、中央林間駅周辺についてしか記載されていない。中央林間地区の整備が終わった後には、南部や中部についても整備を行うなど展望があると思うが、市全体のバランスを考えるのであれば、この全体的な展望も記載したほうが良いのではないか。

事務局 : 中央のまちでは文化創造拠点の開設を進め、南のまちでは再開発事業が終了を迎えようとしている。こうした中、北のまちは、市としては初めて整備を進めていくもので、全体で見ると後発となっている。また、今回の戦略は5年を期間としており、中央林間地区のまちづくりの期間と重なっている。こうしたことから、北部のまちづくりのみ、具体的な記載となった。同ページに、立地適正化計画の策定とあるが、市全体の地域バランスについては、こちらの計画の中で整理していきたいと考えているので、ご理解いただきたい。

A委員 : 基本目標3の市内事業所従業者数の目標数値は、増加とされているが、どのような根拠で算出しているのか。例えば、この戦略に基づき国から交付金を得て事業を行う場合、結果と差異がでたときには、分析を行う必要が出てくるため、確認したい。

事務局 : 目標数値のほとんどは平成30年度までを期間とする市の総合計画に掲載されている指標を活用しており、この伸び率を、平成31年度まで延伸したのとなっている。市内事業所従業者数についても同様で、毎年5,000人の増加を見込んでいたものを、平成31年度まで延伸させて設定した。

B委員 : 感想として、基本目標3の「高齢の人が地域で生き生きと活動していると思う市民の割合」の0.9%上昇というのは消極的に見えた。25ページの若年層等の就労サポートについては、就職面接会もさることながら、過労死や自殺に関わる労働相談についても追記してはどうかと思う。今でも、社労士会が市役所等に出張し、相談などを行っていると思うが、労働条件についても踏み込むこともできると思う。費用もあまりかからず、PRにもつながるのではないか。

事務局 : 労働条件に関する相談窓口の設置の追記は、持ち帰り検討する。

D委員 : 創業支援、事業承継支援の姿勢や取り組みは、もっと強く打ち出してほしいと感じる。

事務局 : 神奈川県において、今年度から新たに、神奈川県事業引継ぎ支援センターが設置されたところである。もちろん、市内で承継者が見つかることが望ましいが、広域的に探す必要もあることから、今後、神奈川県がノウハウを蓄積しながら進めていく事業になるものと捉えており、大和市

- では、このセンターとの連携などに取り組んでいければと考えている。
- E委員 : 承継の問題点として、負債を抱え事業転換できない事業者の存在が挙げられる。そのような状況の場合、直接、公的資金は入りづらいが、事業転換を考えたときに負債を整理できるような仕組みや制度があれば、公的資金も投入できるようにもなり、事業の途中からでも、他分野に参入できるようになると思う。もう一つ、健康についてだが、神奈川県では年頭に、「人生100歳時代の設計図」を打ち出した。今の80、90歳の高齢の方は、介護などで、あまり社会参加はしていないが、今後は、100歳でも現役になれるライフプランを描けるよう、意識や社会構造を変えていきたいという思いが込められている。大和市の戦略においても、県の考えと共通する内容が書かれているものと感じた。
- 座長 : 基本目標2の個別目標1に、障がい者スポーツの取り組みの観点を入れておくべきではないかと感じている。今のままでは、健常者のみを対象にしていると捉えられる可能性があると思う。障がいのある方がスポーツを楽しむことで健康につながることを記載して、障がいの有無に関わらず、健康な生活を送ろうというメッセージとして発信できるのではないか。
- E委員 : 健常者も高齢になれば目が見えづらくなったり足腰が弱ったりして、いずれ障がいを持つことになるが、高齢者が健康に関わる取り組みを牽引し、自ら培った健康長寿のノウハウを健常者に広めてもらえると良い。
- F委員 : 健康の内容が、身体に偏っている気がする。ただ歩けと呼びかけても、なかなか実践されない。高齢になっても仕事ややりたいことなどがあれば、自然と歩くことになる。こうした、社会的な健康を維持するという視点も盛り込めれば良いと思う。
- C委員 : 年をとっても就業や社会参加ができることを発信すれば、高齢の方も心強くなる。会社で、ポスティング人員の募集を行ったところ、定年退職した男性がたくさん集まり、生き生きと仕事をしていた。子育て世代と、生き生きとした高齢の方、両方の支援が大事である。
- F委員 : 健康遊具を設置するより、高齢の方が働ける環境をつくる方が効果的な健康増進につながるように思う。働いていれば、自ずと歩き荷物を持つ。社会的な健康の寿命を伸ばしていけると良い。
- D委員 : 技術を持っている人は、いつまでも仕事がある。こういう人たちを、いかに会社が雇い続けられるかが課題だと思う。
- 座長 : 健康の中に、身体だけではなく、社会的な役割などの観点が入っているとの意見が出されたが、他にないか。
- D委員 : 事務局には、短期間のうちによくまとめていただいた。
- 座長 : 地理的にみると、大和市は神奈川県のだ真ん中、へそにあたることを再認識した。

- C委員 : 学生を採用するときに、大和市の位置を聞くようにしているが、学生は大和市の位置を特定できない。どうにかして大和の認知度を上げたいと思う。
- D委員 : 大和市は川も海も山も無いが、平地という魅力がある。名産も無いが、何も無いことが良いという人もいる。
- 座長 : ヤマトンを活用するなど、市の知名度アップに取り組んでいると思うが、今後も継続が必要。
- C委員 : この戦略が冊子としてまとまったら、国に提出する義務はあるのか。
- 事務局 : この戦略は、法的には公表が求められているため、市のホームページ等で市民に公表していく。その他、法的な認定、認可等の行政手続きはなく、国との間で定められたやりとりは無いと聞いている。
- E委員 : 国は今後、合計特殊出生率 2.07 につながる事業を推進していくため、交付金の審査に移行すると思う。
- C委員 : 大和市では、人口減少の問題はつかみにくかったのではないかと。人がいないといっても、駅では人が歩いている。地方都市と比べて人口減少が顕在化していない。
- F委員 : 何も手を打たなければ、20年後は地方都市のように、駅前を人が歩いていないような状況になっているかもしれない。
- D委員 : 北の寒い地域の出身者は帰郷しない。雪かきも大変で地元に戻らないという話も聞いたことがある。
- 座長 : 札幌駅では、高齢の方が雪かきをできないため、マンションばかりが建っているという。
- C委員 : 高齢になると維持に手間がかかるため、一軒家を持たない人が増えているようだ。

以 上